

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「イトーヨーカドー、顧客参加型キャンペーン」
- 2) 「韓国で世界初の“バーチャルストア” オープン」
- 3) 「節電のための“蛍光灯の間引き”で無駄な電力消費も」
- 4) 「ランチの量を少なくするだけで、1日の総摂取カロリーが減ることが判明」

---

**1) 「イトーヨーカドー、顧客参加型キャンペーン」**

イトーヨーカ堂は8月29日から9月25日まで、「秋の新商品『人気モノ』みんなの総選挙」を開催する。

対象の菓子、飲料、カップ麺、レトルト、調味料（合計約100品目）の対象商品300円（税込）以上を含む2000円（税込）以上のレシートを応募ハガキに貼付、必要事項および「お菓子選挙区」「飲料選挙区」「カップ麺選挙区」の売上げ順位を記入の上郵送。ゲームや旅行券、ホームベーカリーなどが抽選で当たるキャンペーン。

同時に、セブンネットショッピングで、新商品の中から食べてみたい商品を投票すると、新商品の詰め合わせなどが抽選で当たるキャンペーンも開く。

AKB48の総選挙や民主党総選挙などから、「総選挙」という話題のキーワードと仕組みを使い、秋の新商品各種を候補者に見立てた、参加しやすいイベントという。各社メーカーも協賛しており、顧客参加型としておもしろい取り組みになるかもしれない。

---

**2) 「韓国で世界初の“バーチャルストア” オープン」**

韓国の大手スーパーマーケット「ホームプラス」が世界で初めて「スマートバーチャルストア」をオープンしたことを25日、同社が明らかにした。

バーチャルストアが設置されたのはソウル・江南区にある地下鉄2号線の宣陵駅。駅舎内に設置されたバーチャルストアのイメージ写真から商品を選び、高性能携帯電話（スマートフォン）を利用して購入すれば、自宅まで配達される。

イメージ写真にあるバーコードやQRコードをスマートフォンで読み取り、これを購入すれば、配送されるシステム。顧客らはバーチャルストアを通じ、ホームプラスのネット通販サイトで販売されている3万5000点余りの商品を購入することができるようになる。最初は生鮮食品や生活必需品など500品目を対象に運営し、次第に取り扱い商品を拡大する予定だ。

ネットが苦手な人、駅に設置してあるので店が閉まっている時間に行動する人などの、スーパーが取りこぼしている層の需要が狙えそうだ。

日本でもこれを取り入れると、物流網を活かした最短 4 時間配送や、デジタルサイネージ技術で商品を見ている人の年齢、性別に合わせた商品をおすすめしたりと消費者に喜ばれるサービスになりそうだ。

---

### **3) 「節電のための“蛍光灯の間引き”で無駄な電力消費も」**

節電対応のため、蛍光灯が間引かれている光景を見かけることがあるが、電力が無駄に消費されたりするケースがあるとして、メーカーが注意喚起を行っている。

東芝グループの照明器具メーカー、東芝ライテックの Q&A ページに掲載された「照明器具の間引き点灯について」という項目によると、オフィスや店舗などにおいての手軽な節電方法として、蛍光灯器具のランプを外して間引き点灯することについて、「本来必要とする照度が不足するため視環境を悪化させる可能性があり、おすすめできるものではありません」としている。さらに一部の蛍光灯器具はランプを取り外した場合、安定器によっては電力が無駄に消費されたり、点灯時よりも多い電流が流れる場合もあることから注意が必要としており、間引き点灯をする前に必ず使用中の蛍光灯器具の製品形式を確認し、問題がないか検討することを促している。

例えば、2 灯タイプのうち 1 灯を外した場合に、入力電力が通常点灯時の約 52%にまで下がる代わりに、入力電流が約 230%にまで跳ね上がるケースもある。

また、調光用器具でランプを外すと安定器から高圧パルスが発生し、周辺機器に影響を与えることがあるなど、電力消費面以外にも注意すべき点があるということだ。

視覚的に「電気が付いていない」状況だと電力を消費していないように思うかもしれないが、元のスイッチを切らない限り電流は流れる。最近のインバータ器具に至っては前述のように 230%も上がることはないが、旧型の蛍光灯を使用している場合は要注意だ。

よかれと思ってやっていることが、ムダにならないようにしたい。

---

### **4) 「ランチの量を少なくするだけで、1 日の総摂取カロリーが減ることが判明」**

体重を減らすためには好きな食べ物をカロリーを理由に我慢して空腹に耐えたり、意識して運動する必要がある・・・というイメージが強いが、もっと手軽な方法として、昼食を軽いものにするだけで摂取カロリーを減らしていき、結果としてやせることができるというデータがアメリカで発表された。

David Levitsky 教授率いる研究チームは、被験者に 5 週間にわたって月曜から金曜までの食事内容を記録してもらうという実験を行った。

第 1 週目は、被験者たちはバイキング形式の食堂で、彼らが食べたいように自由に食事をとってもよいとした。第 2 週目に入ると、被験者グループの半分は他の人が食べているバイキング形式のランチではなく、キャンベルスープのような、小分けにされた市販の食品を昼食にとるように指示。しかし、その他の食事やおやつは自由に食べてよいとした。最後の 2 週間は、2 週目にランチを制限されたのとは別の人々が、同じく昼食の内容について同様の制限を受けた。

そのデータを分析したところ、ランチの際に小分けにされた食事を 10 日以上続けてとった被験者 17 人について、1 日あたりの摂取カロリーが通常時と比較しておよそ 250 キロカ

ロリーほど低下していて、体重も平均 1.1 ポンド（約 0.499kg）減少していることが確認されました。この研究結果は、10月の the journal Appetite 誌上に掲載される。Levitsky 教授は、「この結果から、人間の体は摂取カロリーに厳密ではなく、多少カロリーの摂取を減らしたところで空腹や食欲の増強につながることはないということが分かった。（昼食だけ制限する生活を）1年以上続ければ、少なくとも 25 ポンド（約 11.3kg）体重を落とすことができるだろう。」と語っている。

ここで明かされている内容だけだと、ランチ以外の食事を制限した場合の結果が分からないため、ランチが生活スタイル上どうしても減らせない人が、他の食事で制限を行っても同じ結果となるのかという点も気になります。今後のさらなる研究が待たれるところです。